第３次奥州市総合計画長期ビジョンに掲げる「めざすべき都市像」決定プロセスについて【資料２】

令和８年11月16日　令和８年度第３回総合計画審議会　政策企画部政策企画課

1.背景及び今後のプロセス

・総合計画長期ビジョンに掲げる「めざすべき都市像」は、まちづくりの長期的な方向性を示すものであり、行政だけでなく、市民や事業者が共有する「スローガン」として位置づけられます。

・このことから、次期総合計画に掲げる「めざすべき都市像」は市民アンケート等を出発点に、市民ワークショップや市民投票を経て市民と行政が共創して策定してきたものです。

・11月16日（月）第３回総合計画審議会にて、市民投票の結果をもとに案を絞り込むための観点から議論いただき、第３次奥州市総合計画（修正案）に登載する１案を決定します。

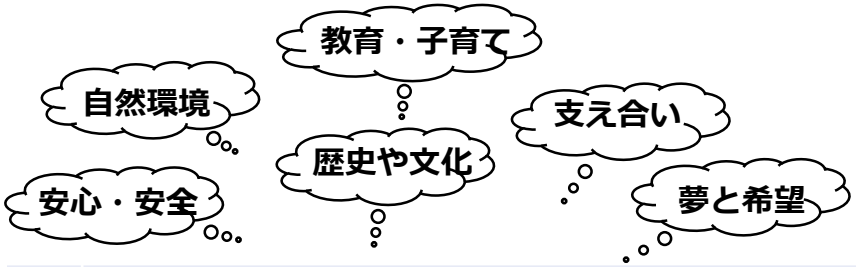
・なお、同計画の「第１編　第３次奥州市総合計画の位置づけ」の「市民参画及び「めざすべき都市像」の決定経過」として、「めざすべき都市像」の策定プロセス、各案やその得票数等を掲載します。

2.決定プロセス

フェーズ	内　容
①参考データ収集	・市民アンケート（R7.8月実施） ・Webによる市民意見（R8.5月～6月）
②候補作成	上記①を参考に庁内で40案を作成
③庁内絞り込み	庁内アンケート等により12案に絞り込み
④市民WS	40代までの市民約30名により、12案から6案を選択し、それぞれブラッシュアップ
⑤候補案決定	総計審により候補６案を決定（8月4日）
⑥市民投票	Webフォームなどで市民投票（自由意見も公募）
⑦最終決定	投票結果をもとに総計審（11月16日）で正式採択

3.「目指すべき都市像」事務局案の作成

事務局で市民アンケートの取りまとめ結果等を活用しながら、40 案程度を作成。庁内投票で得票数の高かった順に以下12案を採用し、市民ワークショップでの「たたき台」としました。



No	「目指すべき都市像」の事務局案
1	自然の恵み、学びの力、人の和で未来を紡ぐまち
2	清流がつなぐ実りの大地 四季の恵みと共に豊かに暮らすまち
3	水とみどりが暮らしを育て、文化がきらめくまち奥州
4	新しい価値をここから、奥州
5	みんなで　えにし結び　まちを磨き　いのち育む　こころおどる奥州
6	食と歴史を未来の力に。人が育ち、輝くまち 奥州
7	新たな価値をつくり続ける、伝統と教養のまち、奥州
8	挑戦する人を育む。豊かな大地と歴史のまち 奥州
9	人が育ち、人が育てるまち、奥州
10	歴史を更新し続ける、人が育てるまち奥州
11	５つの風土が重なり、未来をひらくまち奥州市
12	豊かな大地に風が吹く、人が育てるまち、奥州

第３次奥州市総合計画長期ビジョンに掲げる「めざすべき都市像」決定プロセスについて【資料２】

４.目指すべき都市像の候補

令和８年11月16日　令和８年度第３回総合計画審議会　政策企画部政策企画課課

市民ワークショップにおいて、各グループにおいて下記のとおり「目指すべき都市像案」を検討しました。
第３次総合計画長期ビジョン当初案に次の６案を登載し、市民投票により市民の意見を伺います。

＜１＞
水とみどりをこれからも 新しい価値をここから

「水とみどりをこれからも」には、奥州市の普遍的な魅力である豊かな自然環境を、今後も大切に継承していくという強い意志を示しています。一方、「新しい価値をここから」では、その自然という土台の上に、現状維持に留まらず、革新的な挑戦によって新たな産業や文化をこの地から生み出し、未来へ前進していく決意を表しています。伝統の継承と未来への挑戦を両立させ、持続的に発展していくまちを目指す想いを込めています。

＜２＞
多世代が手を取りあい 未来をつなぐ黄金色 （こがねいろ）のまち奥州市

「黄金色」は、豊かな実りの米、まちの発展、そして藤原文化に象徴される歴史と、合併した5つの地域の風土という、奥州市の持つ複数の豊かさを象徴する言葉です。「多世代が手を取りあい未来をつなぐ」には、子どもから高齢者まであらゆる世代が協力し、これらが築き上げてきた豊かな財産を、次の世代へ責任を持ってバトンタッチし、伝承していくという想いを込めています。

＜３＞
人が育ち、人が育てるまち 奥州～「挑戦」と「協働」で「循環」が生まれる～

まちの未来は市民の主体的な行動にかかっているという想いを込めています。市民一人ひとりが学び成長し（人が育つ）、その人々がまちを良くするために新たな「挑戦」を始め、互いに「協働」する。この主体的な活動が、まちを活性化させ次世代を育む「人が育てる」力となります。この「人が育つ→挑戦・協働→人が育てる」という好「循環」こそが、持続可能で活力ある奥州市を創り出すというビジョンを示しています。

＜４＞
地域の魅力がきらめき 人が未来をひらくまち奥州市

奥州市が誇る豊かな自然、歴史、文化といった「地域の魅力」を、市民が再認識し磨き上げることで、まち全体が活き活きと輝く姿への期待を込めています。そして、その魅力を原動力に、市民一人ひとりが主役となってまちづくりに参画し、自らの手で希望ある未来を創造していくという意志を示しています。地域の資源と人の力を両輪とし、持続可能なまちを目指す決意を表しています。

＜５＞
挑戦できる風土を育む。 豊かな大地と歴史のまち奥州

市民一人ひとりの、その人なりの一歩（挑戦）を暖かく育み、認め合える暖かい地域コミュニティ（つながり・和・輪）の土壌を作るという想いを込めています。また、「豊かな」を大地と歴史の両方にかけ、先人から受け継いだ資産を守るだけでなく、未来の豊かな土壌や歴史を市民自ら築いていくという未来志向の意志も示しています。

＜６＞
つながりから価値と挑戦を 磨くまち奥州

多様な「つながり」をまちづくりの基盤とする想いを込めています。先人から受け継いだ歴史や文化などの「価値」を次世代へつなぎ、守り育てると同時に、市民誰もが安心して「挑戦」できる環境を整備。人々の交流から生まれる新たな価値創造や挑戦を促し、まち全体の魅力を継続的に高めて（磨き）いこうという未来への意思を示しています。

第３次奥州市総合計画長期ビジョンに掲げる「めざすべき都市像」決定プロセスについて【資料２】

令和８年11月16日　令和８年度第３回総合計画審議会　政策企画部政策企画課

5.市民投票概要

1　内容
　第３次総合計画の長期ビジョンに掲げる「めざすべき都市像」を決定するため、市民投票を実施。市民ワークショップで絞られた６案又は現行の「めざすべき都市像」若しくはオリジナル案の投票及び意見募集を募ったもの。

2　対象
　市内に在住または通勤・通学している人、市出身者など市に関心をもっている人

3　実施期間
　令和８年８月５日（水）～10月15日（木）

4　実施方法
①webフォームを用いての投票
②本庁及び各総合支所に設置した投票箱での投票

5　投票数
1,647票

6.市民投票集計結果

候補	件数	割合
【候補１】水とみどりをこれからも新しい価値をここから	299	18.2%
【候補２】多世代が手を取りあい未来をつなぐ黄金色のまち奥州市	282	17.1%
【候補３】人が育ち、人が育てるまち奥州　～「挑戦」と「協働」で「循環」が生まれる～	327	19.9%
【候補４】地域の魅力がきらめき人が未来をひらくまち奥州市	374	22.7%
【候補５】挑戦できる風土を育む。豊かな大地と歴史のまち奥州	171	10.4%
【候補６】つながりから価値と挑戦を磨くまち奥州	147	8.9%
その他（現行の都市像・ご自身のアイデア）	47	2.9%
総計	**1647**	**100.0%**

令和８年11月16日　令和８年度第３回総合計画審議会　政策企画部政策企画課

候補×年代	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	総計
【候補１】水とみどりをこれからも　新しい価値をここから	220	21	32	5	8	8	5	0	299
【候補２】多世代が手を取りあい　未来をつなぐ黄金色のまち奥州市	199	13	33	17	15	2	2	1	282
【候補３】人が育ち、人が育てるまち奥州　～「挑戦」と「協働」で「循環」が生まれる～	189	21	45	33	21	11	6	1	327
【候補４】地域の魅力がきらめき　人が未来をひらくまち奥州市	236	26	49	24	24	9	5	1	374
【候補５】挑戦できる風土を育む。豊かな大地と歴史のまち奥州	112	12	18	9	14	3	2	1	171
【候補６】つながりから価値と挑戦を磨くまち奥州	93	10	21	11	8	3	1	0	147
その他（現行の都市像・ご自身のアイデア）	21	2	5	7	6	5	1	0	47
総計	**1070**	**105**	**203**	**106**	**96**	**41**	**22**	**4**	**1647**

年代別の得票数を見ると、10代～30代、50代は【候補４】を選んだ方が多く、40代、60代、70代は【候補３】を選んだ方が多い。年代別で比較すると、得票数の高い【候補３】と【候補４】で支持層が分かれる形となっている。

令和８年11月16日　令和８年度第３回総合計画審議会　政策企画部政策企画課

候補×地域	水沢	江刺	前沢	胆沢	衣川	市外	総計
【候補１】水とみどりをこれからも　新しい価値をここから	160	66	8	38	5	22	299
【候補２】多世代が手を取りあい　未来をつなぐ黄金色のまち奥州市	139	76	16	26	3	22	282
【候補３】人が育ち、人が育てるまち奥州　～「挑戦」と「協働」で「循環」が生まれる～	166	76	14	37	6	28	327
【候補４】地域の魅力がきらめき　人が未来をひらくまち奥州市	198	79	23	42	7	25	374
【候補５】挑戦できる風土を育む。豊かな大地と歴史のまち奥州	80	50	8	16	3	14	171
【候補６】つながりから価値と挑戦を磨くまち奥州	78	29	12	13	4	11	147
その他（現行の都市像・ご自身のアイデア）	30	9	1	1	2	4	47
総計	**851**	**385**	**82**	**173**	**30**	**126**	**1647**

地域別の得票数を見ると、水沢・江刺・前沢・胆沢・衣川で【候補４】を選んだ方が多く、市外では、【候補３】の得票数が高い結果となっている。

第３次奥州市総合計画長期ビジョンに掲げる「めざすべき都市像」決定プロセスについて【資料２】

令和８年11月16日　令和８年度第３回総合計画審議会　政策企画部政策企画課

その他（現行の都市像・ご自身のアイデア）	件数
あなたの案	21
現行のままが良い「地域の個性がひかり輝く自治と協働のまち奥州市」	24
未選択	2
総計	47

あなたの案	スローガンに込めた想い
新病院を軸につながる、育てる、安心できる災害対策推進のまち、奥州市	
候補2がいいと思うが「黄金色」の読み方が何パターンかあるのが気になる。	
農業革命輝く水と緑の街	農業が縮小していく世の中に抗い、地産地消を豊かにし、職業選択に農家を選べる環境が整っている自然豊かな街であってほしいから。
歴史的な文化と現代の文化が重なり合う近代的な都市	奥州市の歴史と現代の文化が融合した近代的な都市なってほしいという想いを込めたスローガン
素晴らしき街。その名はOH！SHU！	素晴らしいまちだから
奥州市の一人ひとりに輝きを～栄光の自治と協働～	奥州市にはいろいろな人が住んでいてひとりひとり輝いているけどもっと一人ひとりの輝きを出したいから。
老いも若きも住み良いまち	文のまま
人を呼ぶまち奥州	少子高齢化や都市への流出などで人口が減っているから。
夢と星の街　奥州市	今だけではなく、未来が見えるスローガンの方が良いし、長すぎると覚えられないし、勢いを感じないから。
地域の魅力がきらめき、いつまでも住みたいまち奥州市	今のままでは若者が市を離れたら戻って来ない。帰ってきても北上市等に移住してしまう。魅力的なまちに舵を切ることが大事だと思う。
候補3と6が混ざったものが良いと思う	先人から受け継いだ歴史や文化などの「価値」を、市民一人ひとりが学び成長し（人が育つ）、その人々がまちを良くするために新たな「挑戦」を始め、互いに「協働」する。この主体的な活動が、まちを活性化させ次世代を育む「人が育てる」力となります。 学びを通した人々の交流から生まれる新たな価値創造や挑戦を促し、まち全体の魅力を継続的に高めて（磨き）いこうという未来への意思を示しています。
みずとみどり、歴史が息づく、住む人の未来をはぐくみ、未来につなぐ奥州市	自然・歴史・人材の三本柱を結びつけ、過去からの遺産と現在の資産を活かし、次世代に向け持続可能な都市に成長する。市民、訪問者、投資家らが「ここで暮らす。ここで体験する。未来をつくる。」と感じてほしい。
自給自足の奥州市	
長い間使われていて、馴染んでいるし良いと思う。	

令和８年11月16日　令和８年度第３回総合計画審議会　政策企画部政策企画課

あなたの案	スローガンに込めた想い
暮らし。挑み。未来をつくる。 奥州市。	奥州市がもつ豊かな自然、歴史、文化は、これまでの奥州市を形づくってきた大切な財産です。 一方で、人口減少や若者の流出が進む中、これらを守り・発信していくだけではなく、そこに新しい人や技術、発想を掛け合わせ。産業、仕事、文化など「未来の価値を生み出していくこと」が必要だと強く感じます。 若者を中心に「ここで暮らしたい」、「ここで何かを始めたい（挑戦）」、「ここなら面白いことが出来そう」と思える環境や援助体制（資源）をつくり、奥州市から新たな価値を生み出していくこと、 また、市民に「挑戦」させるだけではなく、今の奥州市自身も、革新的な技術や新たな産業を生み出し、見つけ、呼び込み、地域で育てる環境をつくり、奥州市自体が新しい価値を生み出す都市(盛岡に次ぐ)へ変わる「挑戦」をしていくべきだと思いました。 何を持っているかではなく、何を生み出していくか、 「暮らす」だけではなく「挑む」。受け取るだけではなく「未来をつくる」ことが今の奥州市にとって大切だと思います。 奥州市を、新しいことに挑戦する人・企業・若者が集まり、その挑戦を地域全体で育てられるまちにしたいです。 少し具体的に考えてみましたが、奥州市の規模感からして、盛岡市や仙台市などとすぐに同じ土俵に立つことは難しいため、「地方だからこそ挑戦出来る都市」を目指すべきかと思います。 豊かな自然や農業、ものづくり、歴史・文化を地域資源として守るだけでなく、その豊かな資源を活かし、今なら、AIやドローン、半導体・デジタル技術、などの新技術を積極的に呼び込み、企業や県内大学等と連携した実証実験の場として活用する等、新技術を「つくり・見つけ・呼び込み・育てる」仕組みを整え、その「『成功事例』を全国へ発信する」ことで、企業や若者が「奥州市で挑戦したい」と思える環境をつくることが出来るのではと思います。 また、そこに就職・転職支援や企業支援、Uターン・Iターン支援を強化し「仕事があるから住む」のではなく、「ここで挑戦したい(しやすい)から住む」という人を増やすことが出来れば良いと思います。 おうしゅうたろうも存分に働いていただき、奥州市で出来る挑戦（例：スポーツ、職場・文化体験等）を市外へ全力で発信する。 などといった取り組みを重ね、人口規模ではなく、新しい価値を生み出す力で東北を代表する都市を目指していきたいです。 自分の考えとしては以上です ～次ページに続く～

第３次奥州市総合計画長期ビジョンに掲げる「めざすべき都市像」決定プロセスについて【資料２】

令和８年11月16日　令和８年度第３回総合計画審議会　政策企画部政策企画課

【候補１】水とみどりをこれからも　新しい価値をここから
⇒「水とみどり」から新しい価値を見出すようなテーマに見える。全国各地に「水とみどり」がある以上、革新的な「何か」を見出すことが出来るのか、結果として現状維持なのではという心配が残る。「ここから始めよう」という観点で見れば「どこから？どうやって？」とも感じる。

【候補2】多世代が手を取りあい　未来をつなぐ黄金色のまち奥州市
⇒これまでにふるさと担当中心に奥州市の良い部分を大いにアピールしての現状かと思われるため、このスローガンで大きな発展が今後望めるか疑問。奥州市の最大限の魅力だけを掲げただけの印象で、目指したいプロセスやゴールが見えない。

【候補3】人が育ち、人が育てるまち奥州　～「挑戦」と「協働」で「循環」が生まれる～
⇒「～その人々がまちを良くするために新たな「挑戦」を始め、互いに「協働」～」だと、個々人が何かしら目的を抱いて挑戦し、たまたま目的がマッチした場合は「協働」する、ように捉えられる。順番が逆で、互いに手を取り合い「協働」し「挑戦」が生まれるのでは、と感じた。また、どのような方法を以てして、市民一人ひとりが成長していくのか、どの層に期待しているのか・どのようにアプローチするのかが分からないし、掲げただけでは人は変わらない。が、そこが明確であれば、良い案かと。

【候補4】地域の魅力がきらめき　人が未来をひらくまち奥州市
⇒「自然、歴史」といった不動産は魅力として磨き上げることが難しく、既に我々市民に浸透しているため「再認識」にも至らず、その環境を活かした革新的な体験や、新技術の導入など「認識」させ、その「付与された魅力」を磨き上げていくことに力を入れるべきかと。「文化」に目を向ければ、現状奥州市にしかない魅力(岩屋堂箪笥、前沢牛、南部鉄器など)を既に磨き上げている職人・技術者がおり、それを衰退させれば「奥州市独自の魅力」は無くなってくるため、後継者育成や支援に力を入れることも視野に入れるべきではないかと考えます。
　例)「奥州市独自の技術に対する補助金」を継続的に出し、若者向け就職・転職セミナーを開催し「奥州市の魅力の担い手となる」ことと、若者に人気な「給料・福利厚生が良い」ことを全面に押し出し、UターンやIターンを促す。など

【候補5】挑戦できる風土を育む。豊かな大地と歴史のまち奥州

⇒地域コミュニティを作るのではなく、地域コミュニティを作る環境づくりという意味と推察される。
　「豊かな大地と歴史を守る」ことが目的なのであれば、それ以外の挑戦には土壌が作られず、豊かな自然や歴史に固執した、かなり限定的なスローガンのように感じた。

【候補6】つながりから価値と挑戦を磨くまち奥州
⇒全候補の中で、良いスローガンかと思いました。多様なつながりをまちづくりの基盤とするために、多様なつながりをどのようにつくるのか。
　また「つながり」とは「より多様な手段」を考え得るための「手段」だと思います。その手段からどのような挑戦(0→1)を生み出させる(期待する)のか。また「先人から受け継いだ歴史や文化～」の後付け感、「挑戦」に提唱したのち、最後の一文で再度「人々の交流から生まれる新たな価値創造や『挑戦』を促し～」と言及する後出し感があるため、市民誰もが安心して行う「挑戦」の幅が狭くならなければ良いなと感じた。
　ほか「挑戦を磨く」というよりかは、挑戦から生まれた「実績」が磨かれるべきかと。

個人的には、この中では候補「3・4・6」が「磨けば」良いスローガンになると思いました。

以上。

第３次奥州市総合計画長期ビジョンに掲げる「めざすべき都市像」決定プロセスについて【資料２】

令和８年11月16日　令和８年度第３回総合計画審議会　政策企画部政策企画課

市政懇談会での意見（抜粋・要約）

【候補１】水とみどりをこれからも 新しい価値をここから
→ 前後のフレーズの整合性がなく、何を言いたいのかが全く分からない。
【候補２】多世代が手を取りあい 未来をつなぐ黄金色のまち奥州市
→「黄金色のまち」という表現が誇大すぎて意味不明である。
【候補３】人が育ち、人が育てるまち奥州 ～「挑戦」と「協働」で「循環」が生まれる～
→「人が育てるまち」とは何か、「挑戦」と「協働」で「循環」が生まれるというのも意味が分からない。
【候補４】地域の魅力がきらめき 人が未来をひらくまち奥州市
→ 未来をひらくのは人以外にありえないので、「人が」という言葉は不要である。
【候補５】挑戦できる風土を育む。豊かな大地と歴史のまち奥州
→「挑戦できる風土を育む」ことと「豊かな大地と歴史」という言葉のつながり（整合性）が不明である。
【候補６】つながりから価値と挑戦を磨くまち奥州
→ 意味不明で支離滅裂。「つながり」「価値」「挑戦を磨く」の各要素が何を指すのか分からず、日本語として成立していない。
【全体】
　表記の不統一について、候補案2と4は「奥州市」だが、3、5、6は「奥州」と「市」が抜けている。また、5の案「育む。」にだけ句読点があり、他にはなく、統一すべきである。

関係団体との意見交換会での意見（抜粋）

・「めざすべき都市像」は、市の「顔」になる部分なので、一目見て何に向かって進んでいるか分かるような、インパクトのあるものが好まれる傾向がある。

・めざすべき都市像の候補案は、要素を盛り込みすぎて分かりにくい。「住み続けたいまち」など、もっとシンプルで市民が自分事として捉えられるスローガンが良いのではないか。
・例えば、現在策定中の環境基本計画の最上位の概念は「ウェルビーイング」である。

めざすべき都市像を検討する市民ワークショップに参加したが、議論の進め方や時間の制約から、参加者の意見が十分に反映されたとは感じられず、言葉遊びで終わってしまった感があり、モヤモヤが残った。とはいえ、行政側の立場も分かるので、誰もが納得するようなスローガンを作ることが難しいことは理解する。

・目指すべき都市像の６つの候補案は言葉遊びのようで分かりづらい。より短く、分かりやすい表現にすべきではないか。
・都市像の候補案について、詳細な選定理由が示されないと、その言葉が何を意味するのか市民には理解しがたいのではないか。